

ムーブ学生活動プロジェクト

ムーブ学生活動プロジェクトとは、北九州市立大学地域創生学群の学生とムーブが連携して、イベントの企画、運営など、1年間を通して様々な活動を行っているプロジェクトです。

男女共同参画社会の重要性について「若者の目線で、若者に発信していく」ことを目的として活動しながら、ムーブと若い世代のつなぎ役となることを目指しています。

ムーブフェスティバル 北九州に恋べんとう 笑顔でキャラ弁コンテスト

7月14日(土)

このイベントには、広報活動や運営のスタッフとして参加しました。コンテストの参加者には学生や若いママ・パパが多く、幅広い世代の方々に食育の重要性などを発信することができました。またボランティアとして参加した九州女子大学・九州共立大学の学生との交流も図ることができました。



恋愛観を語り合おう! LOVE MEETING!!!

12月9日(日)

8月からは「若者の目線で、若者に発信していく」ことを目的としたイベントの開催に向けて、企画を開始しました。どのような企画がよいか、検討に検討を重ねた末、「お互いの個性を尊重することの重要性を考えることで、デートDVの防止へとつながっていく」という目的のもと、大学生などを対象に現代の恋愛観について同じ立場で自由に語り合う「恋愛観を語り合おう! LOVE MEETING!!!」を開催することに決定しました。

イベントの広報には従来どおりのチラシ配布だけでなく、Facebookも活用しながら、より多くの学生へ情報発信をしました。イベント当日は、「恋人に求めるモノは??」「2人の「いい恋」が続くヒケツは??」をテーマに、北九州市近郊の4大学、約20名の男女がワールドカフェ方式で「自分が思う恋愛観」を共有しました。様々な恋愛観、異なる価値観が出され、お互いを認め合うことの重要性を認識するとともに、他大学との交流の場としても有意義なものとなりました。参加者からは「またこんなイベントに参加したい!」という声を多数いただき、ムーブを取り巻く若い世代のネットワーク形成にもつながっています。



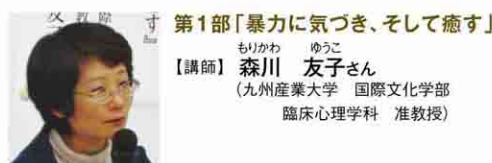
2012年度 女性への暴力ゼロ運動

ムーブでは、昨年に引き続き、国の「女性に対する暴力をなくす運動」(11月12~25日)、「女性に対する暴力撤廃国際デー」(11月25日)にあわせて、DV(ドメスティック・バイオレンス)や性被害、セクシュアル・ハラスメントなど女性への暴力をなくすための特別イベントを実施しました。

●11月1日(木)~30日(金) ムーブ1階交流広場内 「デートDVについて知ろう!」パネル展示
デートDVって何?、どう予防するの?などをイラスト入りのパネルで展示しました。

●11月12日(月) 16:00~17:00 「女性に対する暴力をなくす運動」街頭啓発キャンペーン
ムーブでは、福岡県や関係機関等と連携をし、小倉駅でDV防止キャンペーンのチラシ、ノベルティを配布しました。

●11月17日(土) 14:00~17:00 特別講座「暴力に気づき、そして癒す」
今年度は、女性への暴力やそれに気づく力に目を向け、傷つきを癒すことをテーマにしました。講座では講義に加え、参加者が実際に癒しを体験するワークを行いました。参加者からは、「自分自身が癒された。法的にできることや、心の回復のためにできることを学びました」「ワークを体験できて良かったです」などのご感想をいただきました。



第1部「暴力に気づき、そして癒す」
【講師】森川 友子さん
(九州産業大学 国際文化学部 臨床心理学科 准教授)



第2部「関連法律について」
【講師】小倉 知子さん
(弁護士)

●11月20日(火) 10:00~17:00 弁護士、相談員による「女性への暴力ゼロ!ホットライン」
共催 福岡県弁護士会北九州部会・北九州市配偶者暴力相談支援センター・北九州市弁護士、子ども・家庭相談コーナー相談員、ムーブ相談員が電話で対応しました。相談件数23件のうち、過半数がDVに関するものであり、市外、県外からも広く相談が寄せられました。

ムーブ相談室
おすすめDV関連図書

傷ついたあなたへ DVトラウマからの回復ワークブック

梨の木舎発行
NPO法人レジリエンス著

子ども虐待としてのDV
~母親と子どもへの心理臨床的援助のために~

星和書店発行
武蔵野大学
心理臨床センター
子ども相談部門著
春原由紀編著

虐待という迷宮

春秋社発行
信田さよ子、
シャナ・キャンベル、
上岡陽江著

ムーブ叢書 ジェンダー白書9 アクティブシニアが日本を変える

今年度のムーブ叢書は、「アクティブシニア」をテーマに刊行いたします。これは世界に先駆けて超高齢社会を迎える日本において、団塊世代を中心とした、仕事に、趣味に、学びに意欲的で積極的なアクティブシニアの活動が、日本社会の価値観やシステムにどのようなパラダイムシフトを起こすのか、予測、展望したものです。ぜひ、ご一読ください。

◆執筆者<敬称略・掲載順>
山田昌弘、安立清史、溝田弘美、倉田操、古久俊保嗣、遊間和子、野内類、堀池喜一郎、中原弘子、山本貴代、関根千佳、香山リカ、辻哲夫

【お求め・お問い合わせ】

北九州市立男女共同参画センター・ムーブ 1階 図書・情報室
TEL/FAX 093-583-5082
E-mail move@move-kitakyu.jp



3月末
発行予定

北九州市立
男女共同参画センター・ムーブ編
明石書店刊 A5判
定価 1,500円(予定)

「日本のポップカルチャーはCool!?!」

平成24年12月15日(土) 14:00~15:30 ムーブ5階 小セミナールーム

平成23年度発行の『ジェンダー白書8 ポップカルチャーとジェンダー』の執筆者の中から3名を講師に招き、日本のポップカルチャー、特にマンガとポップスについて話をいただきました。

【ル・ジャポンがカッコいい】
すぎもと 杉本バウエンス・ジェシカさん
(京都精華大学国際マンガセンター・研究員)



ヨーロッパ、特にフランス語圏のBD(バンド・デシネー、フランス語圏のマンガ)とアメリカのコミックスにおける日本人や日本の描かれ方の違いや、特にフランスにおけるマンガについて話をいただきました。

BDは作者も含め男性中心の業界であり、読者は男子や子どもが中心で、女子の多くは思春期になると離れていきました。ところが、日本のマンガブームの到来によりBDを読まない女子も日本のマンガや特に少女マンガを読むようになりました。また、近年フランスでは女性マンガ家が活躍しています。

【着うたクイーンから踊る少女軍団へ】
こいずみ きょうこ 小泉 恭子さん (大妻女子大学 社会情報学部准教授)

アイドルから歌姫(ディーバ)、着うたクイーン、踊る少女軍団へと変化する日本のポップスの変遷を、携帯電話の普及の影響や、ケータイ小説との親和性、キーワード(「自分探し」「自分忘れ」)、女子の行動を通して話をいただきました。

70~80年代の女性アイドル歌手のファンはほとんどが男性でした。しかし、今は、女子が女子に感情移入し、ハマる時代になりました。音楽の場合は場の空気、ノリの共有というのも大切な要素です。

【北九州市漫画ミュージアムと日本のマンガ】
おもて ともゆき 表 智之さん (北九州市漫画ミュージアム専門研究員)

公的施設としての北九州市漫画ミュージアムの役割や日本におけるマンガの位置付け、マンガの役割、マンガと社会との関わりなどについて話をいただきました。

日本には、あらゆる年代、性別、趣味に向けたマンガがあり、日常的に消費されています。マンガは構えずに読むことができるため読者に浸透しやすく、悪影響(暴力、性的表現など)を及ぼすこともあります。またジェンダーに関することも気づかぬうちに浸透している場合もあるので、再精査することも必要かもしれません。

3人によるトークでは、マンガ、音楽とジェンダーとの関わりや、日本と外国との違いなどについて話をいただきました。



